

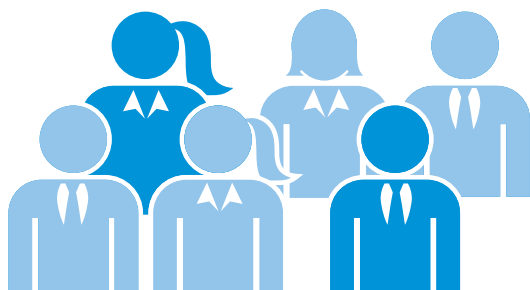
経営者にこそ
知って欲しい

会社を”不健康”にしないために、
まずは従業員の”健康”を守りましょう

がん検診の5つのこと

1 40～60代の3人に1人ががん

※出展：がん情報サービス 全国がん罹患データ



特に、女性特有のがんは
若い世代にり患が多いです



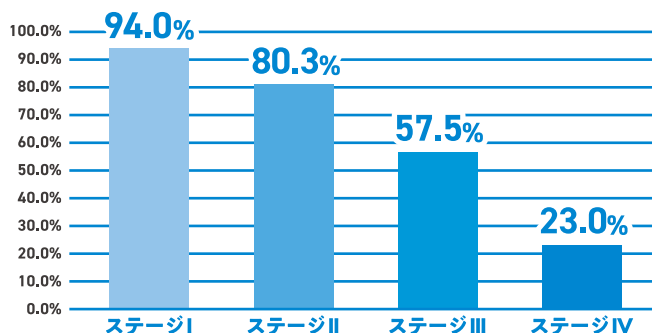
貴重な人材だからこそ、
がん検診の機会を設けることが大切です。

2 早期発見で従業員の命を守ります



全がん
ステージ別
5年相対生存率

出典：全国がんセンター協議会加盟施設における
5年生存率（2011～2013年診断例）



症状が出たときには、すでにステージが進んでいることも。
症状が出ないうちの早期発見で、職場への復帰も早まります。

3 がん検診には「オススメ」があります

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※1	2年に1回 ※1
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※2	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回

※1.当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し年1回実施可 ※2.視診、触診は推奨しない



日本では死亡率減少効果が認められた5つのがん検診が推奨されています。
適切な受診間隔で適切な対象年齢に実施しましょう。

4 「健康診断を受けていれば大丈夫」 は間違いです

がん検診を受診できるよう、
休暇の取りやすい
体制整備も
大切です。

定期健康診断とは別に「がん検診」を実施していますか？

NO

YES

ご加入の健康保険組合が
人間ドックやがん検診を提供していませんか？

YES

NO

受診を勧めましょう

市町村で実施しているがん検診の受診を勧めましょう

■実施方法例

- ・検診機関とがん検診を契約している
- ・検診費用を従業員に還付している
- ・会社の検診メニューに含まれている

これからも、がん検診の受診を勧めましょう

定期健康診断にがん検診は含まれていないため、
上記の手順で従業員の方へがん検診を勧めましょう。

➡ 協会けんぽの場合、「生活習慣病予防健診」にがん検診が含まれています。



5 詳しくは「職域におけるがん検診マニュアル」で

国は「職域におけるがん検診マニュアル」を策定し、
職場でのがん検診を推奨しています。ぜひチェックしてみましょう。

▼詳しくはこちら

